「全国ほんもの体験フォーラム」徳島県で開催決定

第8回総会「全国ほんもの体験フォーラム」が来年3月に徳島県で開催される。同フォーラムは、04年の長野県・飯田大会を皮切りに毎年開かれているもので、体験型観光に取り組み成果を上げている地域の事例を紹介し、課題を議論する場として定着しており、実務担当者や担い手らが参加している。ここでは次回の開催地に決まった徳島県で積極的な取り組みを行っている「南阿波よくばり体験推進協議会」と「そらの郷山里物語協議会」の2つのコーディネート組織にスポットを当てて、取り組み姿勢や体験プログラム内容を紹介する。

新たな体験のはじまり
南阿波よくばり体験

ユニークな体験の1つ、ウミガメの甲羅洗い

南阿波よくばり体験推進協議会は、徳島県南部の海部（かいふ）地域の美波町、牟岐町、海陽町が広域で運営する体験学習のコーディネート組織だ。この地域は、鳴門海峡と室戸岬の中心に位置しており、黒潮洗うリアス式海岸に沿って点在する町には、人情の厚い素朴な人たちが暮らしている。

体験学習のフィールドは、半径約25キロメートルほどの範囲に集約されており、車で1時間以内のエリアに山、川、海のすべてのアクティビティが詰まっている。「文字通り〝よくばりな体験エリア〟」（同協議会）だ。

体験プログラムは、漁業をはじめ農業、林業、自然観察、スポーツ、アウトドア、伝統工芸、歴史文化などの68種類が用意されている。

地域の特色を生かした体験プログラムの概要を紹介してみよう。

海浜部では、この地域に上陸するウミガメの観察やふれあい体験、熱帯魚や世界最大級のハマサンゴと出会えるスキューバダイビングやプロサーファーの指導によるサーフィン体験、阿波の松島と言われる水床湾（みとこわん）では、シーカヤックやシュノーケリングなどのマリンスポーツが体験できる。また、伊勢海老や鱧（ハモ）の日本有数の水揚げを誇る南阿波では、伊勢海老刺し網体験、定置網漁体験などの漁業体験はもちろん、カツオのたたき作り、魚のさばき方体験などの味覚体験もできる。

さらに、片道15分以内で太平洋に浮かぶ無人島、牟岐大島でのシュノーケリング、昭和30年代のまま時間が止まってしまったような島、天然記念物「シラタマモ」（約1億4千年前に繁殖した植物で生物の化石と言われている）の日本唯一の自生地（世界に4カ所だけ）、出羽島（てばじま）での体験「太平洋を望む出羽島のみち」（トレッキング、心太作り体験）など島々での多彩なプログラムも魅力の一つだ。このほか、まぐろ延縄漁の基地がある南阿波では、延縄に使うガラスの浮き玉を作る体験もできる。

農業体験では、ゆず農家（ゆず採り→しぼり→作り）のほか、間伐材を使った「木工細工」「かずら細工」なども体験できる。

一方、徳島といえば誰もが思い浮かべるのが阿波踊りや四国の札所めぐり。このうち、太鼓や鐘の鳴り物入りでの迫力ある阿波踊り体験では、男踊りや女踊り、太鼓や笛、三味線、鉦の演奏まで体験できる。また、四国霊場88カ所の23番札所「薬王寺」がある美波町では、白装束を身にまとっての「お遍路体験」もできる。さらに、河口付近でアンモニアが検出されないことで知られる清流「海部川」での体験など、「よくばりな体験エリア」の名に恥じない多彩なプログラムが魅力だ。

伝統工芸体験では、藍染めの原料スクモの生産が日本一を誇る徳島県ならではの本場「藍染め体験」、近くの浜辺で採れる貝殻を使った「貝殻細工」「貝殻のキャンドル家（ゆず採り→しぼり→作り）」などの果樹農家体験、畑やハウスの野菜の収穫などの体験、ひまわりやオンジシュウムなどの花卉農家体験なども充実している。

こうした体験学習に欠かせない宿泊施設は、ホテル、旅館、民宿、キャンプ場、牟岐少年自然の家など合わせて32軒があるほか、農林漁家生活体験として民家泊も利用できる。民泊100軒、300人受け入れ可能。

交通アクセスは、徳島空港からバスで約100分、新神戸駅からバスで約3時間ほどであり、同協議会では「意外と近い南阿波へぜひ一度お越しください」とアピールしている。

漁師のおかみさんから伊勢海老の話を聞く

特産の藍染め体験で作品づくり

プロサーファーの指導でサーフィン体験

シーカヤック体験

コーディネート組織
南阿波よくばり体験推進協議会
〒775―8570 徳島県海部郡牟岐町大字中村字本村7―4 牟岐町役場3F
TEL 0884―72―2622 FAX0884―72―2623
E-mail:yokubari@minamiawa.info
http://www.minamiawa.info

心の交流・感動体験
『そらの郷山里物語』

サツマイモの収穫作業

「自分たちで収穫したる』。だからこそ体験旅野菜を料理をして食べて行を終えた双方を『また いた生徒さんが『すごく来たい』『また受け入れ自然を使えていいなー』たい』という気持ちにさと言う。一緒に食事をしせる」と語るのは、そらていた受け入れ家庭の方の郷山里物語協議会担当が『とても温かい気持ち者の本音だ。になった。自分の畑で野

徳島県西部、四国のほ菜を育て、収穫しそれを ぼ中央に位置し、四国の食べる。我々が日常だと 二の高峰「剣山」と四国思っていることを、これ 三郎「吉野川」、その代ほど新鮮に受け止めてく 表的な山河の周りには広れる。その姿を見てこち 大な自然と歴史が息づらも新鮮な気持ちにな いている。平家落人伝説の里でも知られる日本三大秘境「祖谷地方」、吉野川上流域には巨岩奇岩「大歩危、小歩危」などの豊かな環境は、観光地として多くの観光客にも喜ばれている。

しかし、この環境を観光資源にするだけではなく、ここに住む人々こそが何よりの資源だとの考えのもとで「そらの郷山里物語協議会」が誕生した。その環境や、そこに住む人々と直に触れ、感じられる数々の体験プログラムを創出してきた。

例えば、農山村の暮らし体験プログラムでは、地域の民泊家庭でありのままの生活を体感してもらうのが狙いだ。受け入れ家庭の多くは山に張り付いたように建つ家々の集落にあり、都市部からの来訪者は、その景観を目にするだけでも、そこでの生活に対する興味を持つことだろう。

受け入れ家庭では、家族の一員としての生活体験が待っている。布団の上げ下げから食事づくりまで、みんなで一緒に行う。畑で採った野菜や自分たちで打ったそばを調理して食べる。カズラを使った小物を作り、炭焼きや間伐作業を行う体験の場合もある。大きな木をダイナッミクに切り倒したり、薪割りをしてその薪で五右衛門風呂を沸かして入ったりもする。

それらは、各家庭が考え、家人がインストラクターとなって、安全に配慮しながら取り組む。日常で当たり前と見過ごされる家事そのものを体験の1つとして、愛情をもって伝えている。先人の経験や知識に触れ、地域の歴史を感じ、山間部の田舎ならではの生活を通じて心の交流を深め、互いに感動するのが「農山村の暮らし体験」なのだ。民泊100軒、300人受け入れ可能。

アクティビティの面では、人気のプログラムがラフティング。吉野川は流量が多く、起状に富んだ日本最高のラフティングスポットと言われ、その激流を求めて海外からも多く訪れている。

開始前にはインストラクターが説明を行い、安全に注意して、初心者でも手軽に楽しめるように努めている。8人でボートに乗り込み、ゴールまで急流を越えながら力を合わせて川を下るだけでなく、なだらかな流れの地点では各ボートでゲームや水泳など、チーム一体で楽しめることが魅力の1つとなっている。

また、ラフティングの作業後には、お互いがそれぞれの役割の労をねぎらい気持ちをひとつにする。このことが「学校生活の中でも生かされる」と好評を得ている一因だ。

また、日本三奇橋の1つ「祖谷のかずら橋」、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている「落合集落」、全国棚田100選に選ばれた「下影の棚田」など、それぞれが四季折々の風景を見せる中で、多くの体験をできるのも同地の魅力。

そらの郷山里物語協議会では、「課外イベントありのままの農山村の生活を、普段の暮らしのペースで普段のままに体験してもらうことで、温かみのある体験、思い出が生まれる。田舎の親戚の家にでも泊まりに行く気持ちでお越しください」と語っている。

ラフティングへいざ出発

傾斜地での畑仕事…疲れが倍増

そばの団子作り

体験者の声

◆生徒の声

「散歩のとき山に向かって『ヤッホー』と叫んだら『ヤッホー』と返ってきた。僕は初めて本物のやまびこを聞きました」

「雨が降った日に霧が出ていました。霧を間近で見たことがなかったので、山の霧はすごいと驚きました」

「蒟蒻芋を掘ってきて、蒟蒻を手作りした。蒟蒻が家で作れるなんてびっくりした」

◆教師の声

「生徒の話をゆっくり聞いてやれないほど思い出話をしてくれる。よほど楽しかったのだろう」

「学校で見る以上に明るく、笑い声がよく聞こえていた」

「普段の授業で消極的な生徒が、積極的におうちの方の手伝いをしようとする気持ちが感じられた」

◆受け入れ家庭の声

「何をするにも初体験と思わせるくらい感動して喜んでくれる」

「過疎で子供の数が少ない山奥に、大勢の子供たちが訪ねてきてくれて、元気をもらえる」

「普段は野菜を食べないと言う子が、田舎の野菜はおいしいと食べてくれる」

コーディネート組織
そらの郷山里物語協議会事務局
担当　山本・三木・辺見
〒778―0002 徳島県三好市池田町マチ2145―1
三好市役所産業観光部観光課内
TEL 0883―72―7620　FAX 0883―76―0203

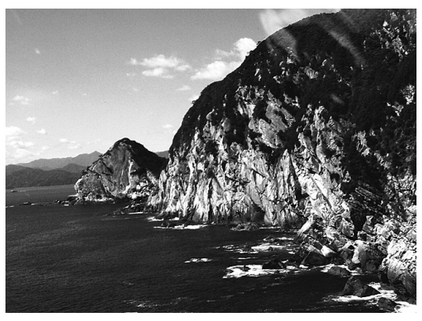
第8回「全国ほんもの体験フォーラム」が平成23年3月、徳島県で開催。

体験型観光のさらなる発展を目指し、回を重ねてきた「全国ほんもの体験フォーラム」も第8回を迎え、今年度は徳島県で開催することが決定いたしました。

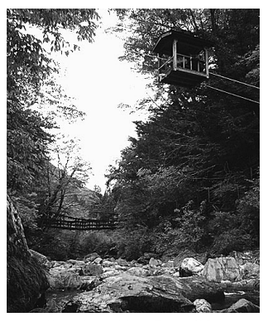
本フォーラムでは、受け入れ先進地、旅行会社、国や自治体、学校教育関係者など体験型観光に熱い思いを寄せる人が一同に会するため、「ほんもの体験」の理念や地域振興の手法、全国各地の取組事例や課題など体験型観光についての「本音」が聞けます。さらに、本フォーラムは、「学ぶ場」としてだけではなく、全国の情熱ある推進者たちと広く交流し、高い志を共有する場としても絶好の機会となっています。

体験型観光は、教育問題、地域活性、観光振興、環境問題などあらゆる日本の社会問題の解決策となる有効な手段であり、多くの人がいろいろな形で関わることができる総合産業です。平成23年3月18日（金）～20日（日）の3日間、多くの方と第8回「全国ほんもの体験フォーラムin徳島」で交流を深めることを願い、皆様のご参加をお待ちしております。

大里松原海岸


牟岐大島

大歩危、小歩危


野猿・奥祖谷二重かずら橋

開催予定日　3月18日（金）、19日（土）、20日（日）

プログラム　体験ツアー、全体フォーラム（事例発表、記念講演、公開パネルディスカッション、情報交換会）、課題別研究分化会など

●主催　第8回全国ほんもの体験フォーラムin徳島実行委員会（予定）ほか　●共催　全国ほんもの体験推進協議会（全国ほんもの体験ネットワーク）